

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100903		
法人名	社会福祉法人 博友会		
事業所名	フロイデグループホーム桂		
所在地	茨城県東茨城郡城里町上阿野沢545-1		
自己評価作成日	平成22年5月14日	評価結果市町村受理日	平成22年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0873100903&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成22年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム桂は地域密着型を目指しているため、地域住民が開催する行事等に、利用者様、職員共に参加している。また、グループホーム桂で開催しているイベント等も地域住民へ声を掛け参加を促し地域密着型を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人全体の理念として「住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせる」を掲げており、特に認知症高齢者への専門的ケアを目指して、当地に平成15年に設立した町内唯一のグループホームである。職員は、利用者がその人らしく自然に生活できるようにゆったりと接しながらも一人ひとりの思いを受け止め、常にカンファレンス・ミーティングで情報の共有を図り、安心して暮らせるよう支援しており、利用者は自宅に居るような寛いだ雰囲気で行き先を過ごしている。管理者・職員は利用者が地域の一員として気軽に外出のできる環境作りを目指し地域との交流に積極的に取り組んでおり、地域のイベント開催時には高齢者の立場でメッセージを発信したり、認知症ケアについての相談を受けたり、中学校で介護教室を実施したりと、認知症ケアの専門職として様々な地域への働きかけを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を地域やボランティアにも理解してもらえるようパンフレットを地域に配布している。	地域密着型サービスの意義や社会的役割を意識したホーム独自の理念を作っている。日常生活の中で、また月1回のミーティング等で日々のケアが理念にそっているか常に振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元商工会に加盟し、地域行事やイベント等に参加している。	地元の商工会に加盟し、職員はイベントの運営にも積極的に関わり、利用者が町に出て行きかけ作りに努力しており、夏祭りや運動会等にも地域の一人として参加している。さらに梅の収穫や茶摘み等ホームの行事に地域の方々の参加を呼びかける等地域と双方向の関係を深めながらの交流を積極的に進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域イベント時などに介護相談室などを設置して、地域の方々の声を聞けるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月毎)に運営推進会議を開催し、行政及び地域の方々から意見を頂き運営に努めている。	役場の担当職員、近隣住民の出席を得て2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの現況報告をし、ホームの課題について様々な意見や提案を頂いている。会議出席者の働きかけで地域の区長と話し合う機会ができ、今後の協力依頼ができています。	地区の民生委員や利用者・家族等へも会議への出席を呼びかけ、より多くの方々の意見・要望をホームでのサービス向上に活かしていく取り組みや議事録を家族に送付する等開かれたホームを目指す取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけでなく、毎月定期的に行行政(地域包括支援センターなど)に訪問し情報収集、連携を絶やさないようしている。	町の担当職員が利用者と直接話し合う機会やホームを訪れる機会はないが、職員は頻りに町役場を訪れ気軽に相談できる関係ができています。中学校で介護教室を実施する等町からの信頼も得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の持てる力を最大限に引き出すケアに取り組み、玄関の施錠や身体拘束など行動を制限する取り組みは常時行っていない。またその取り組みに対して意志も契約書等に盛り込み家族に説明している。	管理者は拘束による弊害についても十分に承知しており、定期的な勉強会を実施したり、ミーティング等で常に話し合いをし、拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に対しての法人内にて勉強会を実施している。		

茨城県 フロイデグループホーム桂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者権利擁護に対する法人内にて勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の締結、解約などの対応は管理者が行い、利用者や家族の申し出に対しても理解いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対して面会時及び家族会時などに意見を聴取できる環境を作り、実際に意見を反映した取り組みが出来ている。	年2回の家族会開催時や面会時に意見や要望を積極的に聴いている。さらに無記名によるアンケートを実施して直接言いにくい要望や意見、苦情等を聞いている。家族からの意見や要望により職員の名前ボードを作る等ホームの運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的(1ヶ月毎)に事業所内のミーティングにおいて職員からの意見を聴取し運営に反映している。業務改善提案書などの様式を用いて行っている。	異動や勤務等については職員の希望を重視しており、月1回のミーティングでの職員の意見や提案は運営に取り入れている。法人全体をカバーするスーパーバイザーが月1回ホームを訪れて職員と面接できる体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期、下期に職員の目標意識を持たせる取り組みとしたチャレンジカード等を記入して職員の取り組みを評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内においては毎月職員勉強会を実施しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所としては全国グループホーム協会に加盟し、研修などに参加している。また全国規模の大会でも事例発表などを実施し他事業所との情報共有に場に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人または家族の元へ訪問し、利用者様の声(要望、不安)など相談を受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に本人または家族の元へ訪問し、家族の声(要望、不安)など相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅利用時の様子や行動障害など他のサービス提供者(居宅介護支援センターなど)と密に連絡調整し利用時に必要とされるケアの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は一緒に食べ、収穫などは一緒に行い喜びを分かち合うなど事業所内での生活の中で共に協働している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちに配慮し、施設に入所されながらも関係を継続できるよう外出支援などをおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族及び地域の方など面会などの際には特に制限することなく対応している。	利用開始時や日々の生活の中から把握した馴染みの関係を大切にしており、通い慣れた図書館、町の商店等との関係継続を支援したり、馴染みの方への年賀状、近況報告の手紙を書く等の支援を積極的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の環境の中で、なじみの関係が出来やすいように環境(居室、座席など)に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退所後も必要に応じて相談・助言などを行える体制が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中から自然な形で思いを引き出すように関わりを持っている。家族面会時には両者交えた会話の中から聞き出し介護支援専門員がアセスメントを行っている。	利用者の思いや希望の把握には話を聴くことが大切であると管理者・職員は受け止めており、利用者の話しにゆっくり、じっくり耳を傾けることを心がけている。また思いを上手く伝えられない利用者については、利用者の話した事等を書きとめ全職員で内容の検討をし利用者の思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時に本人、家族から可能な範囲で聞き取り、事前情報を加味しながら相談記録に記載する。入所後も随時語っていただけるような会話を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が常時、利用者に声を掛けたり表情や行動観察する事を習慣化して気付いた点をカンファレンスで出し合い検討し、サービス計画書に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から把握している個別の情報や検討課題、或いは本人、家族の意向などを元に随時話し合い、即実行し、ミーティング等で周知する場合やカンファレンスで検討、決定し計画書に反映させている。状況によっては医療スタッフその他の関係者に助言を求めることもある。	利用者・家族の意見を十分聴き、職員の気づきや意見を取り入れ、利用者一人ひとりのその人らしさを意識しながら介護計画を作成し日々の暮らしに反映させている。見直しに際しては全職員で、丁寧なモニタリング・カンファレンスを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に常時記録し、ニーズの変更はその都度個人ファイルの所定の書類に記録しておき、アセスメントシートに変更記録を載せる。また、ミーティング、カンファレンスでも検討記録し、計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの受け入れなど地域住民に対しても柔軟に施設を開放し施設の機能を十分に活用している。		

茨城県 フロイデグループホーム桂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(地元図書館、商店など)を常に発掘し把握することで日常のケアの中に取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望にたいして、定期的な受診の介助を実施している。本人及び家族の置かれている現状を理解し柔軟な対応が出来ている。	かかりつけ医や専門医への受診は基本的には家族対応になっているが、家族の希望によっては職員が同行している。家族が受診対応した場合も含めてお互いに状況を伝えあい情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態異常時または定期的な変化に対して助言・指示を受けられる体制を整え、利用者にとって最善のケアを提供できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の状況または退院時の情報などを病院相談員等との定期的な連絡を実施している。また早期退院だけでなく状態に応じた適切な医療機関等への情報提供などの対応も実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては終末期ケアに対して対応はしていないが、終末期ケア対応が可能な施設の案内や説明及び受け入れ調整などを行い家族に対しての精神的なケアも実施している。	利用開始時に終末期の対応については特別養護老人ホームや入院の支援ができること等を説明して安心してもらっている。 職員は終末期ケア実施について意欲的であり、日々重度化した利用者のケアに取り組みながら、地域医療に取り組む医師との連携を密にしてケア技術の向上を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAED講習、救急法など研修を実施している。また急変時の連絡先など周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施し、防災意識向上に努めている。	年2回の避難訓練を実施し、利用者の安全に努めている。不足の事態発生時に多くの職員が駆け付けられる様、ホームから近い順にして緊急連絡網を作って備えている。	消防署が遠いことを考慮して、近くの消防団や駐在所等への協力要請や夜間想定避難訓練等の実施についての検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体でプライバシーマーク取得・更新を随時おこないプライバシーの保護に徹底している。またボランティアなどの受け入れ時には移動範囲など動線にも配慮している。	利用者は年長者である事を常に意識しており、誇りを傷つけない言葉掛けやケアの実践を心がけている。入浴・排泄等のケアに際しては同性介助等利用者の希望に添って実施している。個人情報の取り扱いについては十分に説明して同意を頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事形態など随時(当日の献立など)本人に確認し、大きさなど調整を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で日課は無く、利用者の状況に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼間・夜間など生活にメリハリが出来るように更衣などに対して随時関わり対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては常に利用者の嗜好に配慮し、また季節感を感じられる食材を使ったイベントなどを計画し対応している。また食事やおやつなど一緒に作り、共に食べる事を基本に接している。	食材は法人本部から届くが、利用者の年齢やその日の体調に合わせた調理・味付けをしている。職員も一緒に食卓を囲み見守りながらゆったりと食事を楽しんでいた。全員が外の景色を楽しめるよう席替えをしたり、そば打ち・炭火での芋おでん等の食事会を計画したりと、日頃の食事を楽しむと同時に気分を変えて食事を楽しむ事もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好に合わせて提供し、また落ち着いた環境で過ごせるように馴染みの食器を使うなど配慮している。また水分量を随時記入し把握することで状態に合わせて対応し、トータルコントロールを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の要望なども加味した上で対応している。		

茨城県 フロイデグループホーム桂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に合わせて最適な必要最小限の物品など使用するなど検討し対応している。	本人の状況に合わせた支援で自立した利用者が多いが、失禁が多くなった場合等にはカンファレンスを実施して表情や動きを見ながら声かけ・誘導してトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に頼りすぎないように水分・食事及び活動などを促し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のペースに合わせて入浴の介助を行っている。回数制限などは基本的に行っていない。	毎日入浴をする利用者もいるが、回数は利用者それぞれの体調や希望に合わせている。介助量の増えた利用者もいるが二人対応でゆっくり、気持ちよく入浴を楽しんでもらうよう全職員で取り組んでいる。また利用者の希望を取り入れて同性介助も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なりネン交換の実施などを行い、常に清潔保持に努めている。また空調管理など利用者のニーズに合わせて個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋など変更時には職員に周知し、状態の変化などタイムリーに観察できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で屋内だけでなく屋外においても楽しみ(茶摘みや梅畑の収穫など)を感じられるように環境の整備を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出できるイベントなどを計画し実施している。また個別の外出に対してもニーズに合わせ対応している。	天気の良い日には毎日ホームの周りを散歩したり、外でお茶を楽しむ等常に戸外の空気に接するようにしている。図書館や馴染みの商店等へ出かけたり、町のイベントに参加する等、楽しみ事としての外出も計画・実施している。	

茨城県 フロイデグループホーム桂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所ではお預かりしていないが、本人で管理できる方に対しては対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話に対しては特に制限無く対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花を季節感の感じられる物品を多く配置している。	浴室・台所・トイレ等は清潔で使い易くなっている。居間の時計・カレンダー等も見易い文字・高さになっている。食卓には季節の花を飾るなど職員の心遣いが感じられた。廊下の所々には腰を下ろして寛げる空間があり、自由に過ごせるようにとの工夫が随所に見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には少人数で過ごせるスペースや腰を落ち着かせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋室・和室が設定してあり、本人の生活歴やニーズに合わせて提供できる。またご家族に協力していただき、馴染みの家具や物品など設置するなど本人らしい空間作りにも配慮している。	利用者の好みに合わせて和室・洋室があり、中庭に面した和室には押入れがあり一般の家庭の居室のような雰囲気があった。洋室は広々としており家具等があってもゆったりとした雰囲気があった。それぞれの居室は生活に必要な物品が持ち込まれており安心して過ごせる空間作りへの配慮が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内の環境の案内板などは形式的な物ではなく、利用者が見やすく理解しやすい言葉で統一している。		

目標達成計画

作成日：平成22年9月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に民生委員や利用者・家族等へも会議への出席を呼びかけ、より多くの方々の意見要望を取り入れる。	地区の民生委員や利用者・家族等へも会議への出席を呼びかけ、より多くの方々の意見・要望をホームでのサービス向上に活かしていく取り組みや議事録等を家族に送付する等開かれたホームを目指す取り組みをする。	2ヶ月に1回開けれる運営推進会議の内容を広報紙等に記載し、内容を利用者・家族等に伝える。また、広報誌の中に家族等の参加を促す文章等を開示する、面会時にも運営推進会議の事などを話し興味がある家族には参加を促す様にする。	12ヶ月
2	13	消防署が遠いことを考慮して、近くの消防団や駐在所等への協力要請や夜間想定避難訓練等を実施する	地域の消防団、駐在所との連絡体制の確保、夜間想定避難訓練実施する。	夜間想定避難訓練の実施、また、行政、民生委員を通しての消防団、駐在所との連絡体制の確立を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。